

そこが聞きたい!! 一般質問

一般質問のようすは、インターネットで配信をしています。2次元コードから、該当議員の動画へアクセスできます。(パソコンやスマートフォンで視聴できます。閲覧可能期間は2年間です)



狭山市はもっと生活保護利用者に寄り添ってほしい 高橋 碧子 (無所属)



録画配信の
2次元コード

◆職員体制について

生活保護のケースワーカーに女性や、専門職を登用すべきでは。

福祉こども部長 多様な被保護世帯に、専門的な視点から相談に応じ、必要かつ適切な支援をするためには、女性の視点や社会福祉士・精神保健福祉士などの有資格者も必要なため、今後はケースワーカーとして配置できるよう努める。



もっと生活保護利用者に寄り添って

◆狭山市の生活保護の受給率について

狭山市の母子家庭の保護率が全国平均と比較して低い状況についての見解は。

福祉こども部長 ひとり親家庭などには、児童扶養手当などの経済的な支援などが行われており、これらの支援は生活保護に優先して適用される。また、母子家庭は、扶養義務者からの支援を受ける場合があり、生活保護の受給率が全体として低くなっていると考えている。

◆生活保護の決定は迅速にしてほしい

法律上、保護決定までの期間は原則14日、遅くとも30日以内とあるが、狭山市の現状は。

福祉こども部長 平成30年度の保護決定までの期間は、10月1日現在、14日以内の決定が12件、30日以内の決定が41件である。手持ち金が少ない方やDV被害者など、窮迫した状況の場合は、14日以内に保護決定するよう努めている。

その他のテーマ▶PPPの活用について▶サピオ稲荷山の民間譲渡について

一般質問は、議員が市政全般について、自由なテーマで市長に質問・政策提言を行うもので、市民の声を市政に届けるものです。12月定例会では、17名の議員が一般質問を行いました。ここでは、質問と答弁の一部をご紹介します。なお、質問の内容は、質問した議員が作成しています。【インターネット録画配信もご覧ください】



東京2020をすべての市民が安全に楽しむために 矢馳 一郎 (創造)



録画配信の
2次元コード

◆事前合宿誘致・ホストタウン登録

①東京2020の出場国の事前合宿誘致やホストタウン登録を行い、大会前から市をあげて出場国と交流することは、大会を平和の祭典として多くの市民が楽しむことにつながり、大会後の交流は、子どもたちに大きなレガシーとして遺るものである。1年前にも質問したが、この1年間の誘致活動はどのようなものだったか。



サッカーW杯で誘致した中津江村

②誘致活動についての直接的で具体的な行動としては、平成30年1月のアイルランドオリンピック委員会による視察のみか。

総合政策部長 ①埼玉県の前合宿誘致専用サイトに市内ラグビー施設の情報を掲載しており、30年1月にアイルランドオリンピック委員会による視察が行われた。

② その視察のみである。

◆東京2020のテロ対策

大会開催に向けて、昨年度実施した国民保護実動訓練は、経験値を高めるために、継続実施が肝要である。市としても年1回以上の実施に努める考えだったが、今年度の実施は。

危機管理監 大会組織委員会から具体的な計画が示されていないため、今年度の実施は難しいが、具体的な計画が示された段階で、来年度、時期を捉えて実施したい。

その他のテーマ▶災害時受援計画▶福祉避難所管理・運営マニュアル▶警戒区域内の要配慮者利用施設避難計画

議会だより 200号特集コーナー 議会今昔写真館

議会だより200号の節目に、議会の歴史を振り返ります。



昭和61年4月頃の旧庁舎の議会棟



昭和61年頃の議場



昭和45年頃の採決のようす



現庁舎の議会棟



傍聴席から議場を望む



議長席からみた議場のようす

公共工事を平準化させ、年度当初の4月・5月にも仕事を! 齋藤 誠 (公明党)



録画配信の
2次元コード

◆公共工事の着工状況と狭山市の取り組み

①過去3年間の狭山市における4月から6月の月別着工状況は。

②公共工事の平準化や働き方改革を進めるための具体的取り組みは。

総務部長 ①平成27年度は4月はなし、5月が5件、6月が18件。28年度は4月が2件、5月が3件、6月が20件。29年度は4月が2件、5月が

6件、6月が12件。本年度は4月が4件、5月が8件、6月が19件であった。

②国土交通省が公共工事を平準化するための「さしすせそ」の5項目を公表している。そのうち「せ」の積算の前倒しは既に実施しており、残りの4項目のうち「さ」の債務負担行為の活用と「す」の速やかな繰越手続きについて、実施に向けて検討していく。

◆通学荷物の軽量化

荷物の負担軽減は各学校で対応していることで安心したが、下校時に、今もなお両手に荷物を持って重たそうなランドセルを背負っている児童をよく見かけるが、徹底はされているのか。

学校教育部長 各学校で計画的に持ち帰るよう指導しているが、今後、校長会議などでも、児童に過度の負担にならないように、担任が言葉がけなどして荷物の量について、一層の配慮をしていくよう働きかけていく。



その他のテーマ▶通学路の安全対策を

ここに掲載していない一般質問の質問と答弁の概要は、ホームページでご覧いただけます。ホームページをご覧いただけない方は、FAXか郵送でお届けしますので、議会事務局にご連絡ください。

04-2953-1111 内線3313